

池の環境

池はそのほとんどが、水田など農地への水の供給を目的とした人工的なため池です。大阪府では、南部の平野に多くのため池がみられます。ため池は、最近では埋め立てられてしまいその数が減ったり、農地が減るにしがいが放置されたり、水質が悪化したりしています。ため池の規模も、岸和田市の久米田池や大阪狭山市の狭山池のように大きなものから、山すその棚田の奥にあるごく小さなものまでさまざまです。

平地の大きな池

大きな池にはたくさんの生きものがすんでいそうですが、堤や岸辺がコンクリートなどで整備されていることが多く、実際にはあまり多くの生きものはすんでいません。しかし、大きな池の中央には、冬にはハシビロガモやホシハジロ、コガモなどのカモ類やカイツブリなどの水鳥たちがたくさん集まってきます。ここは、人が容易に近づけない数少ない安全地帯なのです。魚を食べるカワセミもよくみることができます。

最近では、ブラックバス（オオクチバス）やブルーギルなど肉食性の外来魚を放流して、釣りを楽しむ人が増えたため、メダカやカワバタモロコ、ニッポンバラタナゴなど昔からすんでいた日本の魚たちが食べられて、絶滅してしまった池も少なくありません。このような外国産の魚を勝手に放流することは禁じられていますが、一度放してしまうとどんどん増えるので、このままだと被害はさらにひろがりそうです。

トンボ類では、このような大きな池を好むオオヤマトンボやギンヤンマ、ウチワヤンマ、タイワンウチワヤンマなどをみることができます。